

2018 年度

点検・評価報告書
－アセスメント結果の概要－

経営学部

(1) 測定結果の概要

1) 現時点でのアセスメントにあたってのデータ解析概要

今年度の測定結果として、今年度末までにまとめることができたのは次の5つの項目である。①初年次セミナーと人間主義経営演習の AP 事業アセスメント・データ解析 ②人間主義経営演習のアセスメント・データ解析と報告 ③人間主義経営と CSR のアセスメント報告 ④経営情報論のデータ解析 ⑤GPUK の学修成果のアセスメント。

①初年次セミナーと人間主義経営演習の AP 事業アセスメント・データ解析

(志村准教授担当) アセスメント計画に基づき、をして、その結果が2月11日のFD定例会で発表された。これは、AP事業におけるマイルストーンとタッチストーンのアセスメントにあたるもので、1年次のフレッシュマンセミナーと2年次の人間主義経営演習の授業のアセスメントとして行われた。初年次セミナーではラーニングアウトカムの特に実践的能力にあたる3番と4番に関連するアセスメントとなる。また、人間主義経営演習はラーニングアウトカムの1番、7番8番に関連する。人間主義経営演習のアセスメントはより詳細な報告が安田准教授より行われたので、次項を参照されたい。

初年度セミナーでは、入学時の4月から学期終わりの7月にかけて、「学びの計画性」「学習者としての自覚」「自己調整力性」「経営学を学ぶ意義」「情報収集力」のすべての項目で統計的優位が認められる改善がみられた。また、人間主義経営演習でも4月から7月で「学びの計画性」「自己調整力性」「情報収集力」の全ての項目で統計的優位が認められる改善がみられた。

②人間主義経営演習のアセスメント・データ解析と報告

(安田准教授)

ラーニングアウトカムの1番と2番の評価指標として、学習目標1：内外の講師の講義を受講して人間主義経営に関する自分なりの意見を醸成する。学習目標2：グループワークを通じてアカデミーリテラシーを醸成する、を設定して、さらに学習態度の分析を行った。学習目標については、教育効果が認められ改善がみられる。しかし、より一層の測定が必要であると指摘している。また学習態度にも教育効果を認められる。最後に成績の適切性についてもアンケートを通じてポジティブにとらえられていると見られる。

③人間主義経営と CSR のアセスメント報告

(栗山教授担当)

アンケート調査を実施し、授業の学修効果として、人間主義経営に関する関心度、

理解度、説明力、問題解決力という全ての指標で改善効果が得られた。2年後期に配当されている授業としてラーニングアウトカムの1番の学習効果が高い授業であるといえる。

④ GPUK の学修成果のアセスメント

(志村准教授担当)

ラーニングアウトカムの国際性にあたる5番と6番に関して、英語のTOEICデータの解析が今年度に間に合わなかったが、経営学部の海外研修プログラムであるグローバルプログラム・ミッションで2018年春に英国レディング大学で3週間行われた授業のアセスメントがなされ、2月の教授会で志村准教授より報告が行われた。パワーポイントのスライド資料を付する。

英語スキルのうち、スピーキングの意識が上がり、それ以上にライティングの意識の向上が顕著で、リーディングスキルもそれにつぐ。プレゼンテーションスキルの意識も格段に向上している。

英国文化への意識はあまり変わらない結果がでたが、これは英国ではなく、国際社会全般への関心が高かったことが原因かもしれない。TOEICのスコアの参加前と参加後では、それほど大きく向上していない。

⑤経営情報論のデータ解析

(中村孝太郎非常勤講師 担当)

経営情報論は、ラーニングアウトカムの知識基盤の2番「現代経営に必要な基礎的知識を有し、経営の仕組みを理解して、その知識やスキルを習得している。」を主要な項目としている。その知識やスキルの内、「情報系知識および情報を活用した経営系知識」の学修を目的としている。学生への理解度、進め方の適切性などを測定し、グループ学習のさらなる展開など来年度に向けての改善をまとめている。

(4) 測定結果を基にした教育改善への活用

本年度は新たに策定したアセスメントポリシーに従って、測定を本格的に実施するための第一歩の年であった。データ入手と解析が間に合わなかったものが多かったが、上記のような測定結果は、ラーニングアウトカムの各指標において、良好なデータ解析と考察が得られたといえる。今後、より正確に測定できる手法と実施努力を学部全体に広げていきたい。なかでもラーニングアウトカムの内、12の経営の基礎のアセスメントをするため、経営学原理などの複数教員が担当する必修科目での測定の検討を始めているので、来年度の実施が望まれる。また、ラーニングアウトカムの7、8番はゼミでの卒論のアセスメント案を策定し、実施することも最重要課題として位置づけてゆきたい。

※各アセスメントの詳細・根拠書類は参考資料に掲載